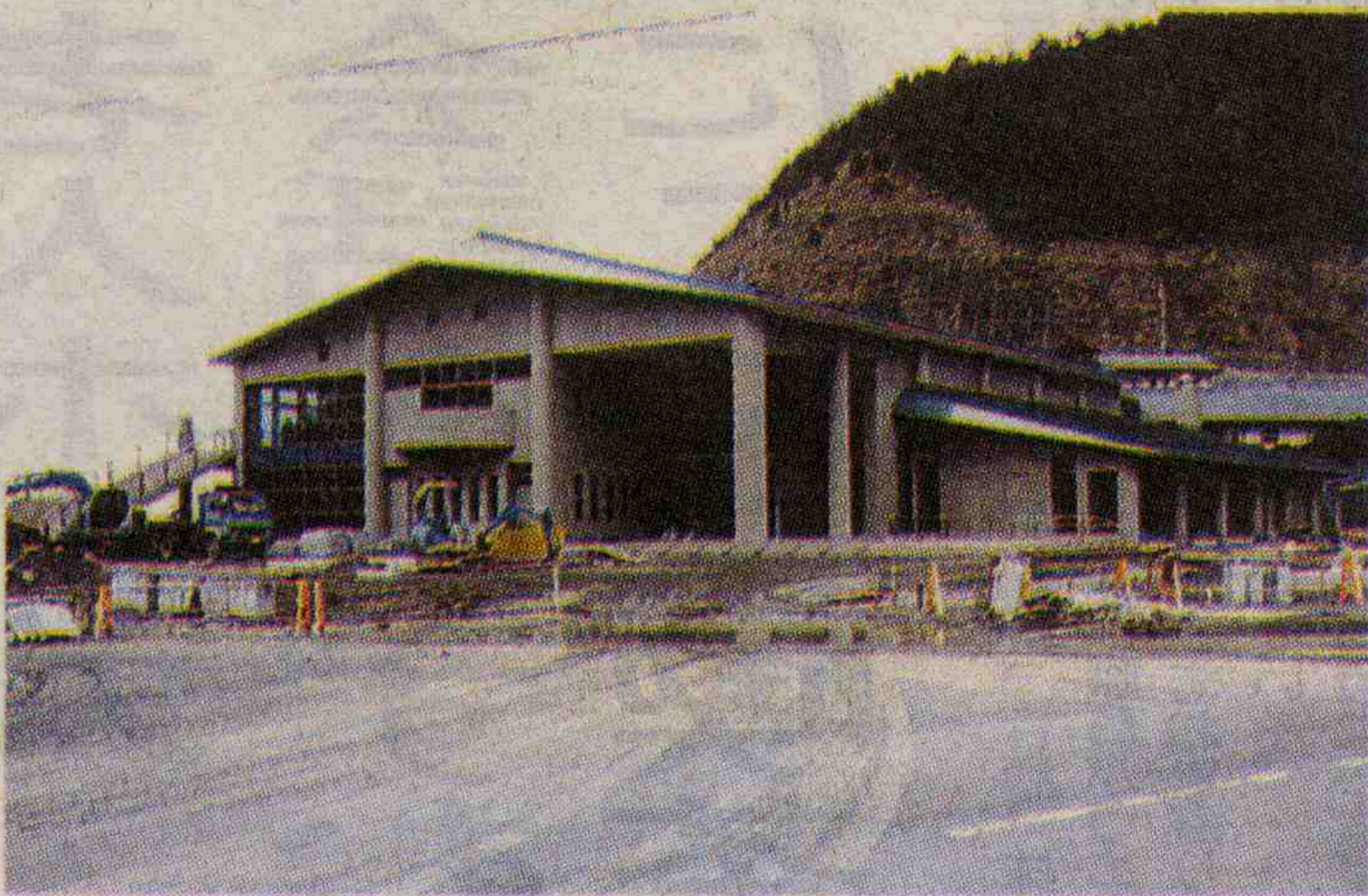




平成六年秋にこの欄で、浅海の海中自然観察にはシュノーケリング(マスク、フィン、シュノーケルを使って遊泳すること)が最も適した方法であり、毎年八月末に県

三方海中公園



⑤ 透明度が高い三方の海を7月にオープンする県海浜自然センター

『マリナーパーク』が7月にはオープン

と財団法人海中公園センター主催による同方法の観察会が三方町で開催されていることを紹介しました。皆さん覚えていらっしゃるでしょうか？

いよいよ今年七月、若狭湾国定公園の三方町食見の海岸に、三方海中公園を舞台として海の利用と普及啓発を図る施設「福井県海浜自然センター」(通称・若狭三方マリナーパーク)がオープンします。

この施設には、皆さんにシュノーケリングによる浅海の自然との触れ合いを体験してもらうセンターが設置され、必要な器材や設備が用意されるとともに、シーズンはシュノーケリングスクールが開催される予定です。

このほか、地元の中映像や海の生き物などをそろえた展示施設や休憩施設もつくられ、学習、情報、アメニティなど自然豊かな若狭の海のすべてを、一年を通して楽しめる施設となります。ぜひお越しください。

なお、施設についての詳しいことは県自然保護課にお問い合わせください。電話は県庁0776(21)1111へ。(文と写真 県ナチュラリストリーダー・夏梅 晃一)



「色鮮やかなサンゴや魚」

三方の海に入ってまず感動することは、海水の透明度の良さ。特に、海水浴客がいなくなった九月、十月の澄み切った海中にソラスズメダイの幼魚など暖海の色鮮やかな魚たちが群れる様子は、本当に印象深いものです。

また、海岸沿いには烏辺島や御神島などの小島や、波浪による浸食で海面付近に洞

三方海中公園中

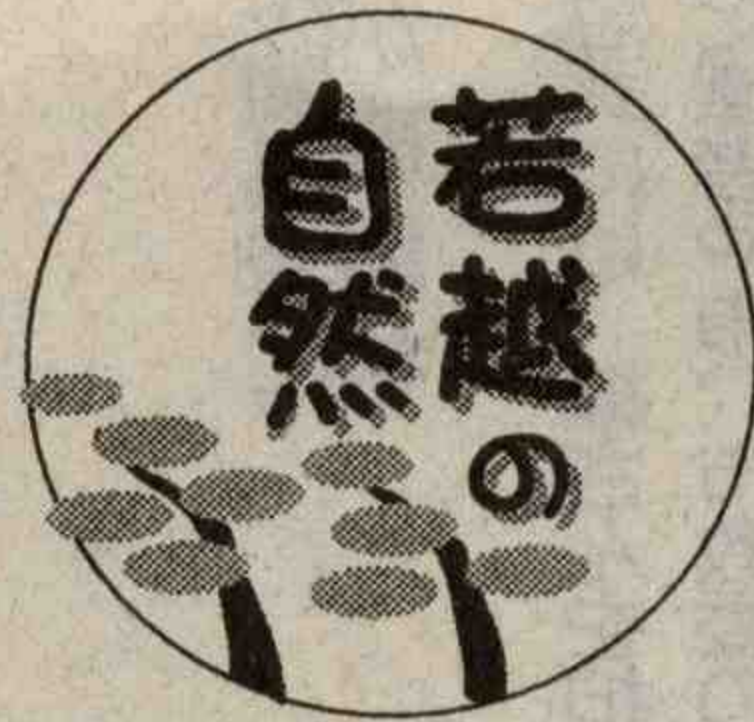
くつを形づくる小さな岩礁が散在し、変化に富んだ地形はついつい泳ぎながら探検したくなる魅力を秘めています。このような地形は、そこに生息する生物相をも多様化しています。

海中に入ると、つい無数の魚たちの群れに目を奪われがちですが、岩肌を凝らすと、フトヤギ(サンゴの仲間)など複雑な体形のカラフルな無脊椎(せきつい)動



高い透明度 多様な生物たち

物が、びっしりと表面を覆っていません。さらに、その生物体の表面に付着して生活している貝類などの小動物を観察することができ、海中の生物の多様性を実感させてくれます。



このような海の自然を満喫させてくれるのが、七月オープンする「県海浜自然センター」(若狭三方マリナーパーク)が定期的で開催するシュノーケリングによる海中観察会です。泳ぎの苦手な人でもルールを守れば割りと簡単に習得でき、それぞれの技術に合わせて楽しめるので、ぜひ参加してみてください。近視用のマスクやウエットスーツ、グローブが用意されているので、クラゲに悩まされる心配ありません。(文と写真 県ナチュラリストリーダー・夏梅晃一)

三方海中公園には、何種類くらいの生物が生息していると思いますか？

現在は、一般の方でも割合簡単にスキューバダイビングが体験できるようになりましたが、これまでは海中に潜って調査することが大変困難だったこともあって、一年を通して学術的に十分調査された資料は見当たりません。

私が個人的にこれまで潜って調べてきた記録では、海中公園地区と三方町食見海岸の浅海域に魚類四十二種、無脊椎(せきつい)動物八十三種、海藻類四十一種などです。実際にはこれよりずっと

三方海中公園(下)

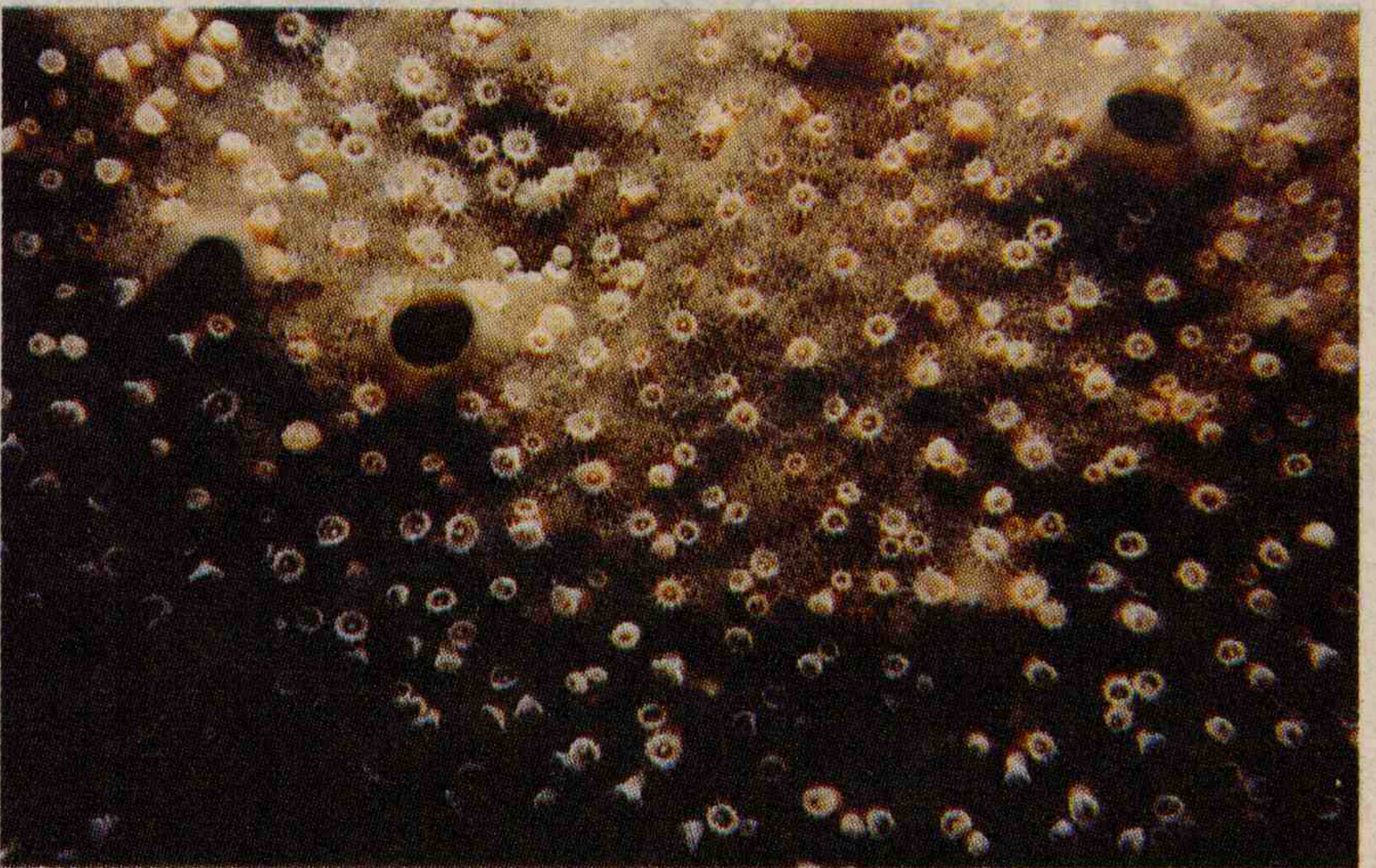
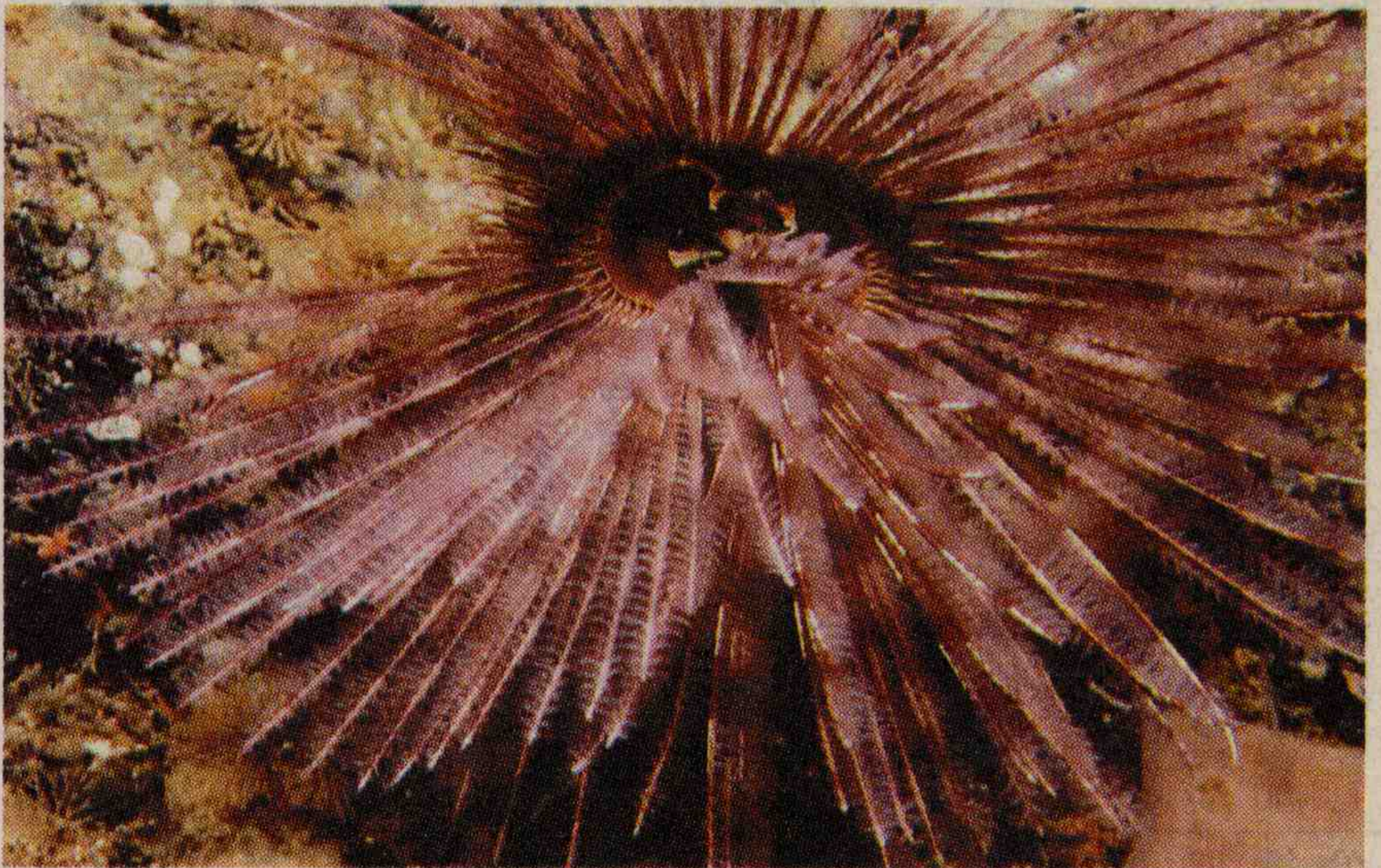
と多くの種類が生息していると思いますが、移動する魚類などの数を特定することはあまり適切ではないでしょう。

七月に「県海浜自然センター」(若狭三方マリパーク)がオープンし、皆さんがシュノーケリング行事に参加するようになると、この数は一気に



に増えるものだと思います。隣の石川県では平成六年に「のと海洋ふれあいセンター」が開館しましたが、その翌年には十九湾の湾口部にジュズ

潜る人が増えれば新種の発見も



サンゴ(イシサンゴ目シオガマサンゴ科ジュズサテ、この美しい海を子供たちのために守り育てていきたいものです。写真は三方海中公園に生息確認され、その後の研究でジュズサンゴの新しい一亜種「ツクモジュズサンゴ」と命名されました。(文は県ナチュラリストリーダ―・夏梅晃一、写真は武生高校教諭・小林輝

若狭、越前の海の自然探求をもっともっと深め(巳)